

学術フォーラム報告書

学術フォーラム「東日本大震災を教訓とした巨大災害軽減と持続的社会的実現への道」は平成 24 年 2 月 11 日(土)13 時～17 時 30 分、日本学術会議講堂において以下の主旨で行われた。

『東日本大震災への取組は、応急的措置から中・長期的で抜本的な対策に軸足が移りつつあります。震災の教訓を多角的にしっかりと受け止め、巨大災害を軽減し、持続的社會への歩みを確かなものにするために、英知を結集すべき時です。巨大災害やそれと密接に関連する地球環境問題にながく取り組んできた地球惑星科学の視点からこの課題に向き合い、わが国と世界がこれから進むべき道を考えます。』

このフォーラムは登壇者 11 名全員が日本学術会議地球惑星科学委員会地球人間圏分科会委員により占められており、社会の耳目を引くことができるか懸念する向きもあったが、ふたを開けてみると、300 名の参加者定員が申込受付開始後わずか数日で一杯になるほどの高い関心を呼び、結果 3 百数十名の参加を得て盛会であった。

フォーラムは佐竹健治地球人間圏分科会副委員長の総合司会の下で行われ、氷見山幸夫同分科会委員長の開会挨拶と趣旨説明の後、次の 8 件の講演がそれぞれ 25 分で行われた。「東北地方太平洋沖の超巨大地震の日本列島へのインパクト」(平田直)、「巨大災害の軽減と持続的社會の調和に我々はどう取り組むべきか?」(入倉孝次郎)、「災害予測に関する社会的要求水準と責任」(鈴木康弘)、「原子力災害と帰還・復旧・復興への社会技術的課題—FUKUSHIMA からの問いかけ」(山川充夫)、「土壌の広域放射能汚染の克服と土地再生への課題」(渡邊眞紀子)、「東日本大震災を踏まえた安全安心で持続可能な国土利用への課題」(氷見山幸夫)、「山地災害を克服して山国日本の持続的発展へ」(千木良雅弘)、「モンスーンアジアにおける持続可能な社會の構築をめざして—東日本大震災の教訓と地球環境問題への新たな取り組みの模索」(安成哲三)。以上の演題に示されるように、地球惑星科学は東日本大震災と自然科学的側面からのみならず、人文社会科学的側面からも広くかつ深く関わっている。

以上の講演の後、休憩をはさみ、春山成子委員の司会でディスカッションが行われた。これはフロアから書面で寄せられた多数の質問と意見を司会が集約し、演壇に並んだ講演者にそれらを紹介して発言を求める形で進められた。いずれも大変熱意に溢れ示唆に富む質問・意見ばかりで、それらに対する回答も併せ、大変充実した意見交換の場となった。講演に加えこのディスカッションについてもほとんどの参加者の皆さんから高い評価をいただくことができ、幸いであった。ただし時間の制約により質問・意見に十分に答えられなかった点多々あったため、提出された質問票は後日すべて講演者に渡し、「学術の動向」8月号に特集として掲載される予定のこのフォーラムの特集の中で可能な限り答えさせていただく予定である。

フォーラムは分科会委員の碓井照子第一部会員の閉会の挨拶をもち、盛況のうちに終了した。この学術フォーラムで学んだことを踏まえ、地球惑星科学の立場から、東日本大震災からの復興に更に尽力したい。

平田 直（東京大学地震研究所教授 連携会員）

東北地方太平洋沖地震による日本列島の変形や地震活動の変化などの日本列島に与えた影響について講演。地震に関する基礎的な研究の一層の進展が必要であることと、最新の知見を防災・減災に生かす必要性をまとめとして挙げる。

13 時 35 分 巨大災害の軽減と持続的社会の調和に我々はどう取り組むべきか？

入倉孝次郎（愛知工業大学客員教授 連携会員）

科学者は自然災害の軽減や持続的社会に貢献できるのか、また震源域に近い原発では何が起こったのかについて講演。我々が取り組む課題として、原発のリスクとコストに真正面から向かい、老朽化した原発の事故のリスクと発電コストの正確な分析を挙げる。

14 時 災害予測に関する社会的要求水準と責任

鈴木 康弘（名古屋大学減災連携研究センター教授 連携会員）

ハザード評価に関する問題点と最大規模想定のか考え方などについて講演。問題提起として、ハザード評価の精度・解像度に関する社会的要求水準を議論して明確化する。そしてこれを受けて、精度を明確にしたハザード評価を行うという減災戦略立案の流れの反転が重要であることを示す。

14 時 25 分 原子力災害と帰還・復旧・復興への社会技術的課題

—FUKUSHIMA からの問いかけ

山川 充夫（福島大学経済経営学類教授 第一部会員）

福島県民の避難状況や原発避難住民の帰還条件、復興計画について講演。住民にアンケートを行い、その調査結果を示したり、福島県の復興のビジョン・基本理念を明確に示す。

14 時 50 分 休憩・質問用紙の回収

15 時 05 分 土壌の広域放射能汚染の克服と土地再生への課題

渡邊眞記子（首都大学東京大学院都市環境科学研究科教授 連携会員）

放射性セシウムによる土壌汚染についての講演。土地機能の再生に向けての課題として、多様な対応、段階的・長期的対応への理解や拡散防止、二次汚染の防止のための規制をすることを挙げる。

15 時 30 分 東日本大震災を踏まえた安全安心で持続可能な国土利用への課題

氷見山幸夫（北海道教育大学教育学部教授 第三部会員）

耕作放棄地や海岸部などでの土地利用についての講演。海岸付近に林や倉庫があることの有効性を写真を用いて示すなど、実際の被災地の様子の写真を多く用いて発表する。

15 時 55 分 山地災害を克服して山国日本の持続的発展へ

千木良雅弘（京都大学防災研究所教授 連携会員）

日本の地すべりについて講演。豊かで安全な中山間地域を作っていくために我々ができることとして、大規模な崩壊の場所を予測する、安全な広い領域を見つけることなどを挙げる。

16 時 20 分 東日本大震災の教訓と地球環境問題への新たな取り組み

安成 哲三（名古屋大学地球水循環研究センター教授 第三部会員）

モンスーンアジア地域と地球環境問題について講演。モンスーンアジア全体での自然災害軽減と広域環境汚染防止を進める研究者および市民を含む国際的枠組みが緊急に必要であることを提言する。

17時 ディスカッション

事前に質問用紙に書かれた各講演者への質問をいくつか抽出して、講演者が回答する。各講演者それぞれ1～2つの質問に回答した。

17時30分 閉会の挨拶

碓井 照子（奈良大学文学部地理学科教授 第一部会員）



図1 日本学術会議 外観



図2 会場受付の様子



図3 日本学術会議 講堂



図4 会場内の様子

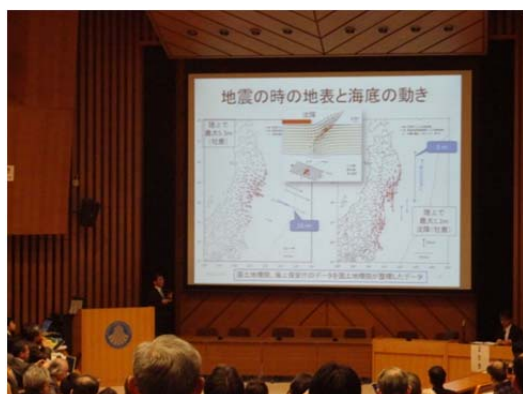


図5 講演の様子



図6 ディスカッションの様子